

公表

事業所における自己評価結果 (放デイ)

事業所名		こども発達支援ルームぶらすup榊林ルーム			公表日：2025年3月13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令等で規定されているスペースは確保できている。また子どもたちが伸び伸びと快適に過ごせるよう、公園へ行くなど公共施設への外出なども組み合わせている。さらに言語訓練に特化した環境を整え、新たにST室を配置している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令等で規定されている配置基準以上の職員を配置している。児童の特性や期分の波に合わせて、個別での対応が必要な場合があるため、外出活動を取り入れたり、部屋を区切る等の工夫をしながら柔軟に対応できるよう手厚い体制を整えている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		特性上、個室で過ごすことが落ち着く児童の場合、情報伝達が困難な時があるため、個室を使用する際には、本人のストレスに配慮しながら、適宜、様子を伺うようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		バリアフリーで広い室内で伸び伸びと活動できるよう、自立課題や教材、おもちゃの整理・整頓の徹底を行っている。また、児童帰宅後に片付けや掃除等を行い、翌日の午前中に最終確認を行い、不十分な際には、その都度整頓を行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		障がい特性に合わせて過ごせるよう、パーテーションなどで区切っているため、児童が自ら落ち着きたい際には、個室等に行けるよう設定している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員の勤務時間により情報が偏らないよう、朝礼、昼礼、個別支援ミーティング等を行い、広く職員間で振り返りや療育のポイント等の確認を行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの希望にできる限り対応できるよう、改善に向けて職員間で協議している。またすぐに対応が難しい場合には、保護者と相談しながら、すり合わせを行っている。今後は「ぶらすupを考える会」を設け、検討していきたいと考えている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		各職員との面談や個別支援会議、支援ミーティングの場を設け、意見交換を行いやすい環境を心がけている。また、良い意見については、すぐ改善できるよう取り入れている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	福祉サービス第三者評価による評価は受けていないが、ぶらすupだより等の広報活動に力を入れたり、相談支援専門員や関係機関の来訪、ボランティア等の受け入れ、地域住民やご家族に行事に参加していただくなど、風通しの良い環境となるよう心がけている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の研修に関しては、年間計画に基づき実施している。また支援ミーティング等で、児童を支援していくうえでの課題点や検討事項等の確認、OJTの実施や雇用形態を問わず全職員に対して社外の研修に参加する機会を設けるなど、職員が自己研鑽しやすい環境を整えている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ガイドラインに沿って行事やプログラムを作成し、システム（HUG）にて月ごとに案内したり、ぶらすupだよりにて公開している。また、保護者や関係機関からの要望により、個別のプログラムも作成している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		利用開始前の見学や体験時の様子も含めて、保護者から聞き取りを行ったうえで個別支援計画書を作成している。また、日々の行動観察を記録し、職員間で共有・協議しながら個別支援会議や支援ミーティング等を行い、作成するようにしている。今後も引き続き、よりよい支援が出来るよう、アセスメント方法の検討をしていきたいと考えている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議や毎日の昼礼時等に、職員間で支援の統一ができるよう、情報共有や行儀を行っている。今後は、さらに有意義な場となるように計画的に取り組んでいける仕組みや方法を検討していきたいと考えている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援会議等で職員間で協議、共有し、計画書に基づいて支援を行っている。また定期的なモニタリングを通して、保護者等のニーズに変更がないかなど支援内容の確認を行い、適宜、変更等を行っている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールやテキスト等を参考にしたり、機能訓練担当職員による専門的なアセスメントを実施している。今後は、全職員が統一した内容の聞き取りができるように「子育てファイルふくいっ子」を活用する等により、使いやすいツールを標準化できるよう検討を行いたいと考えている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点
適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		新任者研修等ではガイドラインを読み込むことを基本とし、ガイドラインに沿って支援を行っていきけるよう、職員間で共有している。また児童や保護者へは、定期的に面談等を行い、本人や保護者のニーズに合わせた支援内容を検討し、個別支援計画書を作成している。個別支援計画をもとに、それぞれ児童の直近の様子等をみながら、個別に配慮が必要な場合も含めて職員配置等を考え支援している。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月の活動行事やプログラムについては、月に1回程度、リーダー中心に全員で話し合える会議を設けている。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		児童の発達状況に合わせて、自立課題、運動活動、性教育学習、外出活動、季節行事や出前講座などいろいろな活動を提案し、組み合わせることで、同じ活動が続かないように工夫している。またボランティアや地域の方に協力をお願いし、職員以外の方とも関わられるようなプログラムも提案している。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援計画をもとに、児童の特性等を考え、児童一人ひとりのその日の状態を見て本人の意向も確認しながら、個別や集団での活動を組み合わせた支援を行っている。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼と昼礼、支援ミーティング内で行っている。朝礼等にて活動予定表、支援内容等について。全職員に確認・周知している。また議事録等を会社の共有LINEにて共有を行っている。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日の支援終了後は、送迎や退勤時間等もあり、全員での振り返りが難しいので、翌日の朝礼や昼礼時にて振り返りや次に活かした支援方法を検討している。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		児童の様子など気がかりな点等について、システム（HUG）への入力や朝礼等で振り返った内容を朝礼議事録等に記載するなど、職員間で共有している。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		少なくとも半年に1回以上のモニタリングを行い、計画を策定するために個別支援会議を開催し、計画の見直し等を行っている。またモニタリング以外でも必要に応じて、保護者等と面談を行い、ニーズに合わせて計画の変更がある場合には見直しを行っている。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		利用時間や児童の体調等にに合わせて、ガイドラインに沿った形で、創作・余暇・自立活動等、複数組み合わせた療育支援を行っている。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		スケジュール表をもとに、自立課題の内容を選んだり、自由時間では誰と何をして遊ぶのかなど、自分で選んで自分で決める力を身につけられるような支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者と担当職員が出席することが出来るよう調整している。また会議内容に合わせて機能訓練担当職員も出席できる場合には、出来る限り出席している。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		サービス担当者会議等を中心に、必要に応じて障害福祉、学校、医療機関等と情報共有し、連携することができている。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校へ事前に行事や下校時間等の確認を行い、送迎等の対応を行っている。また送迎時には、その日の児童の学校での様子や体調等も確認している。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		サービス担当者会議やアセスメント時に、保護者や相談支援事業所等へ確認している。今後も必要に応じて情報共有を行っていきたいと考えている。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	R6年4月に開所しており、利用児童も小学校低学年が中心であり、今年度は移行の対象となる児童はいない。今後、移行する場合には、担当者会議等に出席し、相談支援事業所や保護者、卒業後の進路先等と情報共有していきたいと考えている。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		今年度は、児童発達支援センターへの視察研修等を行っている。また市外の事業所の専門家に来ていただき、助言等をいただいている。今後は、自事業所の見学等に来ていただき、実際の支援の様子を見ながら助言等をいただくと良いと考えている。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		長期期間中を利用し、児童クラブでの交流会を実施している。また近くの公園や公共施設を利用することで、地域の子どもたちと接する機会を設けている。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		療育部会など関連する協議会には参加し、職員会議等で報告している。しかし、出席者が限られてしまうことから、職員間で「自立支援協議会」というものの理解にばらつきがみられるため、朝礼等も活用し、理解しやすい工夫を行っていく。
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時やシステム（HUG）を利用し、保護者へ利用日ごとに活動内容について発信している。また必要に応じて、電話や面談等で共通理解を図っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		今年度は、保護者セミナーを企画し案内を行っている。次年度は、参加しやすいよう、保護者のニーズや就労の都合等も考慮し、事前に開催日時や内容についてのアンケートを実施し、検討していきたいと考えている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学や契約時に保護者へ説明等を行っている。今後は、保護者から問い合わせがあった際に、全職員が説明できるよう、会議や研修等の場を利用し、少しずつOJTを進めていきたいと考えている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		日々の支援の時間の中で、児童へ「今、何を目標に過ごしているのか」などの聞き取りを行ったり、面談やモニタリング時に保護者へ聞き取りを行うなど、定期的に意向を確認している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援開始前の聞き取りをもとに作成したものの説明や確認等を行い、同意を得ている。またモニタリング時には計画書を見ながら、今後の意向を確認し合っている。その後、支援ミーティングにて職員間で協議し、個別支援計画書の作成を行い、必要に応じて変更点等を修正し、最終確認していただき、署名をいただくようにしている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時やモニタリング時、電話連絡等で適宜行っている。今後は、保護者セミナーも活用し、より一層、保護者支援に取り組んでいきたいと考えている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		R6年4月に開設したばかりであることや保護者の就労状況により、今のところ保護者会等は設置していないが、今後、保護者同士やご家族で交流できる機会（行事）を提供できるよう検討していきたいと考えている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付窓口やご意見箱を設置しているが、今のところ苦情はありません。ご意見や要望等があった場合には、マニュアルに従い、苦情解決責任者と相談しながら対応している。また児童からの要望等については、利用時間中に返答するなどの対応をしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		年3回、ぶらすupだよりを発行し、配布したり、システム（HUG）により活動予定の提示や行事等の活動結果について写真つきで報告を行っている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについては、会議等を通じて職員へ周知している。また、個人情報が記載された書類等については、鍵付きのキャビネットに保管するなど、取り扱いには十分注意している。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童の発達状況や保護者に合わせて、写真やイラスト等を使って、わかりやすく説明するよう工夫したり、理解していただけたかなどの確認をしながら、意思疎通を図っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ぶらすupだよりを地域住民の方に配布し、施設や活動について知っていたく機会を設けている。また、ハロウィンやクリスマスなどのイベントにご協力をお願いし、行事に参加していただいている。今後も地域に愛される事業所を目指し、輪を広げていきたいと考えている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルについては、施設内に設置しており、いつでも閲覧できるようになっている。今年度は保護者セミナーの場で説明も実施している。定期的に発信できるような方法を今後も検討していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		職員に対しては研修を実施するとともに、児童に対しては行政等にご協力をいただき出前講座を活用しながら、災害教室や避難訓練などを毎月行っている。また、活動に合わせて、非常災害の発生に備え、消防署や警察署への見学も行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		利用前に、保護者との面談にてアセスメントをとりながら聴取している。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、アレルギーのある者はいないが、今後受け入れる場合は保護者と相談のうえ、担当の医師との連携を図れるように進めていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は作成されており、計画に基づき、救急救命講習や防犯教室、避難訓練等を実施している。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時、保護者セミナー等の際に非常時の対応について説明を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった場合は、まず管理者に口頭にて報告を行い、その翌日の朝礼や昼礼時に口頭にて周知している。口頭での周知後は、報告書を作成し、改めて全職員へ周知を行い、大きな事故等に繋がらないように留意している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		新任者には、虐待や権利擁護に対する正しい知識を得て、児童と関わりをもてるよう、新任者研修内で虐待防止・権利擁護に関する知識を学ぶカリキュラムとしている。また虐待防止委員会の設置し、全職員が年1回以上、社内外の虐待防止・権利擁護に関する研修等の受講をしている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点
54	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。</p>	○		<p>現在、身体拘束を行う必要性がある子どもの利用はないが、日々の関わりの中で、小さな出来事が身体拘束へと発展していかないよう、虐待防止研修等で学んだことを職員間で共有し、お互いに留意しながら支援している。もしやむを得ず身体拘束を行う必要性が出てきた場合には、身体拘束等適正化委員会等で十分に検討し、利用者本人の生命や身体を保護するための緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識とし、計画に記載する必要があると考えている。</p>